

理論經濟

大西広研究会

尾崎裕之研究会

栗野盛光研究会

玉田康成研究会

津曲正俊研究会

土居丈朗研究会

中村慎助研究会

廣瀬康生研究会

藤田康範研究会

藤原一平研究会

藤原グレーヴァ香子研究会

穂刈亨研究会

和田龍磨研究会

大西広研究会

—近代経済学を基礎とするマルクス経済学—

1. 研究分野

指導教員は「近代経済学を基礎とするマルクス経済学」を構築するために長らく作業をしてきた。近代経済学はマルクスのアイデアの多くを受け継ぎ発展をしてきたというのが1つの理由であるが、それと同時に、では何が「マルクス経済学」であるのかも問われなければならない。資本主義の限界性は今や広く知られるところとなり、よって経済学の在り方も根本的に問われている。研究会では、この大きな課題を正面に据え、2年間をともに歩みたい。簡単な課題でなくとも、まずは挑戦することが重要であり、案外ポイントは単純なところにあるかも知れないからである。

なお、この目的のために、しばらく盛山和夫『社会を数理で読み解く』有斐閣を教科書として使ってきた。ゼミ生がこれを基礎に様々なマルクスのアイデアを数理化する工夫をするための良書だからである。内容的には、格差の問題、権力の問題、互酬性の問題、社会的ジレンマの問題、教育機会の不平等問題、差別の問題、集合的決定が引き起こす問題など多様な内容を含んでいる。ただ、ここでの内容をゼミ論に発展させるには多少種切れの感もあるので、今のところ、この教科書と日吉の「マルクス経済学」で使っている教科書『マルクス経済学(第2版)』のどちらかから各自が独自に発展させる論点を探すのもOKとする予定である。

なお、研究会には、こうした研究の発展を経て大学院進学している学生も多い。こ

のようなスタイルで、各人の研究テーマを開拓してくれることを期待している。

なお、以上のテキストで3,4年生全員で開催する「本ゼミ」以外に、『資本論』を学年ごとに開催するサブ・ゼミで読んでもらっている。『資本論』は学生時代でしか本物を読めないの、このようにしている。読み込む中で自分なりの考えを形成してほしい。

最後に、新ゼミ生の中には指導教員の日吉での講義を受講していない君もいると思うので、その場合は、三田で開講の「現代資本主義論」と独学で努力されたい。ただし、入ゼミ選考の際には差別しない。

2. 学生への要望

慶應の学生諸君に大きな期待を持って京都からやってきた。指導教員は「就職に役立つ研究会」をやる気はない。それより、真のエリートとは自分のことより社会のこと他人のことに気を配り、それに貢献しようとする人間だと言っている。世の政治、経済は混乱の極みであり、こんな時こそ真のエリートが求められている。生き方に迫る新しい経済学を学生諸君とともに作り上げたいと考えている。

3. 選考について

a. 募集人数

A-B 日程合わせて10名以内

b. 選考内容

「マルクス経済学を学びたいと思う理由」とのタイトルでレポートを提出いただき、そのうえで面接を行う。

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
マルクス経済学を学ぶ意欲さえあるのであれば他学部性や PEARL 生も歓迎である。ただし、ゼミは日本語で行う。

d.選考基準

近代経済学とマルクス経済学のどちらも学びたいとの意欲、ものごとを根本的に考え直してみたいという意欲を最も重視する。ただし、ゼミ生は「数理マルクス経済学」の研究を頑張ってもらいたい。もし数学に苦手意識があっても、意欲さえあれば君たちの年齢なら数学を初歩から勉強しなおせる。問題はそこまでの意欲を持ってくれるかどうかだと考えている。

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 7 人、女子 2 人

(他学部 0 人、留学中 1 人)

3 年生：男子 9 人、女子 2 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4,5 限)

当研究会ではマルクス経済学と近代経済学の融合を目指しています。そこで今年度は森山和夫らの著書『社会を数理で読み解く』を輪読しています。マルクス経済学に興味のある人、大西先生の人柄に魅力を感じた人は、ぜひ一度ブースまで足を運んでみてください！皆様の入会を心待ちにしております。

②サブゼミ (月曜 5 限)

3 年生で『資本論』の輪読を行います。曜日や時限は年度によって異なります。

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

論文発表を行います。

⑦夏休み

合宿を行い、三田論準備を進めます。

⑧合宿

例年、9 月に 2 泊 3 日で合宿を行います。

今年は千葉県長生郡一宮に行きました。

⑨ゼミ必修授業

今年は大西先生の授業をとるよう指示されました。来年はそういった指示が出ない可能性もあります。

⑩経費

教科書、合宿の費用

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特にありません。

7.先生が担当している講義

日吉：マルクス経済学 (火曜 2 限)

三田：現代資本主義論 (水曜 2 限)

8.ゼミ HP・SNS

<https://keioseminar.wixsite.com/onishikenkyukai>

9.連絡先

尾崎裕之研究会

—理論経済学—

1. 研究分野

プログラミング言語 Python の学習、および、それを用いて経済学の問題への応用を行います。

2. 学生への要望

ゼミへの積極的な参加です。

3. 選考について

a. 募集人数：10～15人

b. 選考内容：試験と面接。試験の内容は尾崎教授の HP に掲載予定

c. 他学部入ゼミ・PEARL 生受け入れ：可。
ただし、ゼミ員間で日本語によるコミュニケーションが可能であることが条件です。

d. 選考基準：試験と面接の結果を総合的に評価します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子7人、女子7人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子10人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

5. 活動紹介

①ゼミ (火曜4・5限)

415教室にて活動しています。

当ゼミは主にパソコンを用いて行います。

Python に関しては基礎的な部分から丁寧に指導していただけるので経済学に苦手意識を持っている人でも全く問題ありません。また自由度の高さは、経済学部の中でもトップクラスであり、明るく温かい雰囲気 of ゼミです。

②サブゼミ

ありません。

③パートゼミ

ありません。

④インゼミ

毎年1月に東京大学・大阪大学とインゼミがあります。

⑤課外活動

ありません。

⑥三田祭

年度によりますが三田論執筆がある年もあります。(今年度はなし)

⑦夏休み

年度によりますが基本的には合宿以外ありません

⑧合宿

年度によりますが昨年度は二泊三日で鬼怒川へ、今年度は尾崎先生の都合によりありませんでした。

⑨ゼミ必修授業

ありません。

⑩経費

年度によります。(今年度はなし)

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

※今年度から変更の可能性あります

昨年度は

A 問題選択者…計量経済学 [第2版] 浅野哲・中村二郎著 有斐閣

B 問題選択者…尾崎教授の HP 掲載の映画の感想文

7. 先生が担当している講義

数理経済学 (大学院 月曜3限)

8. ゼミ HP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/ozaki/lectures/res.html>

9.連絡先

栗野盛光研究会

ーマーケットデザイナーー

1. 研究分野

本研究会では、ミクロ経済学やゲーム理論を基礎として、広い意味での市場（マーケット）あるいは社会制度のデザインを研究します。純粋な経済理論と立場が少し異なり、マーケットデザインは、実際のマーケットをインセンティブ・効率性・公平性の観点から理論的に調べ、経済理論を実践し、よりよいマーケットを考えます。

指導教員は、これまでマッチング理論を中心に、その実践を研究しています。例えば、現在研究しているのは、日本のドナー交換肺移植制度、大学入試制度、新卒一括採用市場、進学振り分け、スポーツのトーナメント、移住マッチングなどです。また、自動運転・燃料電池車・IT・シェアリング経済など自動車に関連するモビリティイノベーションが起こり、それを支える社会制度として次世代自動車交通基盤も研究しています。

本研究会では、経済制度を見る目を養い、デザインする能力を身につけることを目標とします。まず、マーケットデザインに関する学部生教科書を輪読して理論道具を身につけます。必要ならば、ゼミ生の平均能力や関心に応じて、分析道具である数学、ゲーム理論、メカニズムデザイン等を学習します。同時に、少人数のグループに別れ、グループごとに研究する市場を決め、現制度を調べ、必要であれば新しい制度を提案してもらいます。

2. 学生への要望

要望1：ある市場をよくしたい、あるいは現制度に不満を持っていて、ミクロ経済学やゲーム理論を使って分析したい学生を歓迎します。

要望2：本研究会は、理論的に制度を分析します。自分自身で論理的に厳密に議論したい学生を歓迎します。現時点で高度な数学の知識（トポロジー、測度論、離散数学など）は必要ありませんが、必要に応じて、数学の講義を受けたり、自習したりと学ぶ姿勢が大事になります。

要望3：英語と日本語にこだわりますが、ゼミでは日本語が中心になります。

要望4：1か月に1度ほど、パワーポイントを使って発表をします。

要望5：就職希望者と大学進学希望者のどちらも歓迎します。

3. 選考について

a. 募集人数

A・B日程で10名程度

b. 選考内容

筆記試験（ミクロ経済学）、面接、日吉の成績。筆記試験ではあらかじめ問題が指定され、その中から出題されます。日本語で出題。持ち込み不可。今年度B日程は実施しませんでした。B日程は筆記試験なし、面接と成績のみです

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れ

他学部：不可

PEARL生：可。ただし、ゼミ時の会話は日本語。書き言葉は、日本語・英語どちらでもよい。

d.選考基準

数学とミクロ経済理論関係の成績、筆記試験、面接により総合的に判断します。

4.ゼミ構成員

4年生：男子7人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子9人、女子5人

(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4.5 限)

本年度は「How to Read and Do proofs(Daniel Solow)」を5月まで輪読し、その後はグループ別に分かれ、マッチング市場やモビリティサービス市場のデザインを研究しています。

②サブゼミ (金曜 5 限)

任意で「Introduction to Real Analysis, Fourth Edition(Bartle)」を進めています。

③パートゼミ

ありません。

④インゼミ

今年度はありません。昨年度は横浜国立大学の熊野ゼミと、ブロックチェーンによる新しいビジネス創造を目的として1~2か月に1度、インゼミを行っていました。

⑤課外活動

ソフトボール大会への参加、OB・OG会、不定期の飲み会やお台場メガウェブ見学などがあります。

⑥三田祭

今年度より三田論に参加します。

⑦夏休み

合宿を行います。また、合宿での発表準備のため、メンバーで研究を行います。

⑧合宿

今年度は9月初めに1泊2日で鬼怒川

温泉にて実施しました。各グループが自らのテーマについての論文の草稿を書き、プレゼンを行いました。

⑨ゼミ必修授業

栗野先生が担当するミクロ経済学中級 I b (春・金曜 3 限)、モビリティイノベーションとマーケットデザイン a (秋・月曜 4 限) がゼミ必修授業です。ただし、これらの情報は今年度のものであり、来年度は変更される可能性があります。

⑩経費

合宿代、飲み会代などがあります。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

武隈慎一(2017)『演習ミクロ経済学』演習新経済学ライブラリ

7.先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級 I (春・火曜 2 限)

三田：ミクロ経済学中級 I b (春・金曜 3 限)、モビリティイノベーションとマーケットデザイン a (秋・月曜 4 限)

8.ゼミ HP・SNS

ゼミ HP :

<https://keiokurinoseminar.wixsite.com/kuri-nozemi>

栗野先生 HP :

<http://sites.google.com/site/mkurino/japanese-site>

Twitter :

@econ_kurino

9.連絡先

玉田康成研究会

—理論経済—

1. 研究分野

玉田ゼミでは、『専門的知識としての経済学の取得と現実経済の分析』を目標とし、ミクロ経済理論とその応用を軸に研究を行っています。また、『視点の確立』と『視野の拡大』を重要な柱とし、経済理論、とくにミクロ経済理論を「視点」に、現実の経済現象すべてを「視野」にあて、視点を確立した上で、バランスよく視野を拡大していくことも活動の目的としています。

2. 学生への要望

1. 学問に対する敬意と現実に対する関心、ゼミ活動への熱意のすべてを兼ね備えた学生の応募を望みます。
2. 論理的思考に抵抗がないことが重要です。ミクロ経済学やマクロ経済学の授業を「面白い」と思えることが必要条件です。
3. 経済学の知識をセールスポイントにしたいという意欲を持って欲しいです。

3. 選考について

a. 募集人数：20人

b. 選考内容

筆記試験(ミクロ経済学)、

研究プラン、入ゼミ願書、面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否

可(ただし授業は日本語で行う)

d. 選考基準

筆記試験(ミクロ経済学)：60%

研究プラン+入ゼミ願書+面接：40%

4. ゼミ構成員

4年生：男子 13人、女子 11人
(他学部 0人、留学中 2人)

3年生：男子 13人、女子 8人
(他学部 0人、留学中 1人)

5. 活動紹介

①ゼミ(水曜 4.5限)

テキストの輪読が担当者によるプレゼンテーション形式で進められます。先生から適宜アドバイスをいただき、ゼミ生は理解を深めます。今年は春学期で3年生が一冊、4年生が二冊取り扱いました。今年度春学期の輪読文献は、3年生は『Introduction to Industrial Organization』、4年生は『イノベーターのジレンマ』『貧乏人の経済学』です。秋学期は、春学期とは異なる本の輪読を進めていきます。

②サブゼミ(火曜 4限)

3年生のみで、本ゼミとは違うテキストを輪読します。今年度の文献は『ゲーム理論』です。毎週担当者が発表しゼミ員でそのテーマについて議論し理解を深めていきます。

③パートゼミ(火曜 5限)

3年生が三田祭で論文発表をするパートに分かれて自主的に進めます。今年は、インセンティブ1、インセンティブ2、行動経済学、企業戦略の4パートがあり、各パートで三田論に向けて論文を作成中です。

④インゼミ

今年度は大阪大学の安田ゼミと名古屋大

学の花崗ゼミと慶應義塾大学の藤原グレーヴァ香子ゼミとインゼミを行う予定です。

⑤課外活動

特になし

⑥三田祭

三田祭では、3年生がパートゼミで進めていた研究結果を発表します。

⑦夏休み

夏休みでは各自文献を読み進め、夏合宿の中間報告に向けて準備をしていきます。

⑧合宿

新歓合宿（1泊2日）：

5月に3年生と4年生の交流を深めるためにレクリエーション主体の合宿を行います。先生やOBの方も参加して下さい、ゼミ全体で仲が深まります。

夏合宿（2泊3日）：

毎年3年生が三田祭論文の中間報告を行い、4年生は卒業論文の中間報告を行います。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級Ⅱa,Ⅱb(水曜2限)

⑩経費

合宿費 30000円

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

玉田先生の授業のレジュメや期末テストの過去問、ゼミ試の過去問を利用している人が多いようです。

7.先生が担当している講義

日吉：ミクロ経済学初級Ⅱ（火曜2限）

三田：ミクロ経済学中級Ⅱb（水曜2限）

8.ゼミ HP・SNS

HP：

<http://www.clb.mita.keio.ac.jp/econ/tamada/>

Twitter：@tamada__2020

9.連絡先

津曲正俊研究会

—マイクロ経済理論—

1. 研究分野

私個人は、マイクロ経済学、特に「契約理論」の分野を研究しております。契約理論は、2016年のノーベル経済学賞受賞対象となった非常にホットな研究分野です。人々の行動を織り込みながら制度・組織をどう設計したらよいかを検討する理論です。社会問題の多くは、人間行動を適切に制御できない制度・組織設計の失敗として説明できます。問題がなぜ発生するのか、解決策はあるのか、などを分析するために有用な理論です。

研究会では、特に契約理論に限定せずに、ゲーム理論を含む最先端のマイクロ経済理論を幅広く学び、それを用いて現実の経済問題を分析する能力を磨くことを目的に活動します。第一の柱は、皆さんが日吉時代に学んだマイクロ経済学の基礎の理解をさらに深めると同時に、「ゲーム理論」や「産業組織論」など比較的新しいマイクロ理論分野を専門書の輪読・議論を通じて学習することにあります。第二の柱は、経済理論の応用分野の文献を読むことで、理論が現実問題の分析にどう用いられているか学習することにあります。国際貿易論、産業組織論を含むマイクロ経済理論を基礎として発展した研究分野の文献の輪読を考えております。2019年度に扱うテキストは未定ですが、研究会に在籍する2年間にマイクロ経済理論とその応用を幅広く勉強できるように配慮したいです。3年生のときには、経済問題の分析に経済理論を応用する場としてパートごとの共同研究を推進してもらいま

す。また最終的な研究成果は、皆さんの関心に応じた研究テーマでの卒業論文として提出してもらいます。

2. 学生への要望

経済理論は、必死になって考えて習得できることが多く、忍耐強さが要求される研究分野です。経済理論に高い関心を持ち、さらに深く学習・研究する意欲をもった学生の参加を望みます。パート研究や卒業論文に関しては、テーマに強い制約をおかず、学生の関心をできるだけ尊重する形をとっていますので、経済理論の基礎研究と同時に、理論を用いた様々な応用研究に関心のある学生にも対応しうる研究会であると思います。ただし、円滑に運営する都合上、マイクロ経済学の基礎をしっかりと理解している必要があるため、入会選考はその点を重視します。

3. 選考について

a. 募集人数：10人程度

b. 選考内容

筆記試験（日吉のマイクロ経済学の内容）、面接、成績表。

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
ともに入会可能です。ただし、ゼミ活動はおもに日本語で行います

d. 選考基準

上記の総合判断です。

4. ゼミ構成員

4年生：男子12人、女子1人

（他学部0人、留学中0人）

3年生：男子9人、女子1人

(他学部0人、留学中1人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜4、5限)

4限と5限でそれぞれ、違う教科書の輪読を行います。今年はゲーム理論と産業組織論の教科書を用いて勉強しています。来年、再来年は違う内容の可能性が高いです。

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

3年生は各人の興味、関心に基づいた少人数のグループに分かれ、三田論の準備を各々のグループで進めていきます。今年は「IT」「ゲーム理論」「マーケットデザイン」の3つのグループに分かれています。

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

三田論に参加します。

⑦夏休み

4年生は各自卒業論文を進めます。3年生は三田論の準備を進めます。

⑧合宿

夏休みに行います。今年は9月の下旬に千葉で2泊3日の合宿を行いました。

⑨ゼミ必修授業

マイクロ経済学中級 I ab

⑩経費

経ゼミ費 2000円、教科書代数千円および合宿代

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

入ゼミ試験の過去問(ウェブサイト上に掲載)

7.先生が担当している講義

日吉 春木曜1限 ミクロ経済学初級

三田 秋水曜3限 ミクロ経済学中級

8.ゼミHP・SNS

HP: <https://tsumagarizemi.jimdo.com/>

Twitter: @tsumagari2019

9.連絡先

土居丈朗研究会

—政治経済学・公共経済学・財政学—

1. 研究分野

土居丈朗研究会では、「政治経済学・公共経済学・財政学」を研究分野とし、政治的な影響も考慮しつつ経済理論を駆使して現実の経済政策を分析する力を養うことを目的としています。日吉で学んできたけいぞ史学を土台とし、理論では終わらない実践的な「手法」としての経済学を学び、実際の経済に応用していきます。

2. 学生への要望

このゼミは2003年度から始まりました。ゼミでは、現実の経済政策に関する諸問題を、経済学の理論とデータを扱った計量経済学的分析を用いて客観的な分析を参加者とともに進めます。ゼミ員自身の分析結果の発表、討論を積極的に行います。そのため、現実の財政金融政策や政策決定の政治過程などに高い関心を持っている学生の参加を望みます。それとともに、近代経済学の考え方を用い、高度な理論や手法をゼミや文献などを通じてもっと身につけたいという向学心のある学生を歓迎します。

3. 選考について

a. 募集人数：A・B両日程合わせて15名前後（ただし、過去にB日程を実施したことはない）

b. 選考内容：筆記試験（マクロ・ミクロ・英語）、教授面接、成績表

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否：受け入れ可能

d. 選考基準

筆記試験か日吉での成績のどちらかで、マクロ経済学・ミクロ経済学とともにB相当

以上の成績が求められます。英語和訳では足切りが設定されます。加えて、面接試験での評価を総合的に判定します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子14人、女子9人
（他学部2人、留学中0人）

3年生：男子0人、女子0人
（他学部0人、留学中0人）

※2019年度は募集を行いませんでした。

5. 活動紹介

①ゼミ（火曜4・5限）

②サブゼミ（春学期木曜4・5限）

③パートゼミ（秋学期木曜4・5限）

④インゼミ（春学期・秋学期1回ずつ）

⑤二年生へのメッセージ

ゼミ内で財政・社会保障・教育・地方の4つのパートに分かれ、ISFJ日本政策学生会議に向けて論文政策に取り組みます。執筆論文は毎年分科会賞を受賞しています。春学期は、本ゼミでは3年生が指定された文献を読み発表を行い、議論を交わします。サブゼミでは土居先生が執筆された本を輪読し理解を深めます。秋学期の本ゼミでは3年生はサブゼミの時間で作成しているISFJ論文を、4年生は卒業論文の経過報告を行います。また、勉強だけではなく、ソフトボール大会（3年連続優勝）や三田祭への模擬店出店など様々な活動に全力で取り組んでいます。ゼミ員の仲も良く、勉強や遊び、部活や就活も全力投球できるゼミです！是非応募してみてください

⑥三田祭

2018年度はISFJ論文の展示に加え、模擬

店を出店しました。中庭模擬店大賞を受賞するなど大成功を収めました。

⑦夏休み

SFCの中室牧子研究会とのインゼミに加え、夏合宿を行っています。例年2泊3日で、3年生はISFJ日本政策学生会議に提出する論文の中間発表を行います。学びだけでなく、観光や飲み会もあり、ゼミ員との絆も深まる楽しい合宿です。

⑧合宿

新歓合宿(5月)と夏合宿(9月)があります。新歓合宿では、勉強や観光に加えソフトボール大会の練習も行っています。土居先生やゼミ員との仲を深めることのできる充実した合宿となっています。

⑨ゼミ必修授業：

⑩経費：1,000/年、合宿費

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

多くのゼミ員が『公務員試験 スーパー過去問ゼミのミクロ・マクロ』（実務教育出版）を利用していました。土居ゼミHPに2003年度からの過去問が掲載されています。

7.先生が担当している講義

企業金融論 a/b

8.ゼミHP・SNS

土居丈朗研究会ホームページ
(<https://doinyusemi.wixsite.com/doisemi>)
土居丈朗研究会 Twitter (@doi_nyusemi)

9.連絡先

中村慎助研究会

—理論経済学・公共経済学—

1. 研究分野

研究分野は厚生経済学、とくにメカニズムデザインや社会的選択理論です。理想的な状態における完全競争市場は、参加者である各消費者や生産者が利己的で合理的な行動を行った場合に、パレート効率性を実現することは「厚生経済学の基本定理」として広く知られています。また、不完全情報や公共財の存在等がある場合など、市場がパレート効率性を実現できない現象は「市場の失敗」と呼ばれています。2007年にノーベル経済学賞を受賞した Leonid Hurwicz 教授を嚆矢とするメカニズムデザイン論は、このように市場が失敗する状況において、市場を補完あるいは代替することによって、厚生上望ましいと判断されたターゲットを、利己的で合理的な経済人が構成する社会において実現することのできる制度の設計を目的としています。この性質上、分析にはゲームの理論が多く用いられています。一方、最近の実験経済学の進展により、人は実際には必ずしも合理的に行動せず、他者に影響されたり、リスクを過少や過大に評価したりすることによって、従来のゲームの理論で前提とされてきたものとは異なった行動様式を持つことが明らかとなりました。これを前提とした理論的、実証的な分析が行動経済学です。最近の関心は、人の限定合理性を前提とした経済モデルを用いて制度設計論の再構築を行うことにあります。本研究会はもう少し広く理論経済学及び公共経済学に関心のある学生を対象としています。諸君はマクロ及びミクロ経済学初級 I,II を通じて理論経済学の初歩を学んだことと思

います。当研究会の目的はその理論をさらに深め、またその応用として経済政策論や財政論の基礎である公共経済学を研究することにあります。

2. 学生への要望

研究会の活動は、いわゆる本ゼミと3年次の共同論文の作成、4年次の卒業論文の作成に分かれます。本ゼミでは上記範囲より適宜、基本的な文献を選んで輪読します。通常は「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「公共経済学」の3分野より教科書を選ぶこととなります。3年生及び4年生各2、3名ずつ計4、5名で一つのグループを作り、各グループが各回の報告を責任をもって行います。その際には PowerPoint を用い、また必要に応じてレジュメを配布することによるわかりやすいプレゼンテーションが期待されます。そこでは、いかに討論に参加したか、またいかに自分の理解したことや自分の考えたこと、意見を正確に得力をもって伝えられるかが問われます、また3年生には2ないし3つのテーマを選び、テーマごとのグループに分かれて共同研究を行います、夏合宿において中間報告を行い、そこでの討論によってテーマの一つに絞り、三田祭において最終的な研究発表を行います。4年生の卒業論文のテーマは原則として自由とします。しかしながら論文は次の三点を目標とします。①いかに強いモチベーションを持っているか②当該分野でどんな新事実あるいは結果を発見したか③自分の興味並びに発見をいかに正確に読者に伝えるか3年次の冬休み明けに各自、卒業論文のテーマを決定・報告し、春休み明けに研究予定の

提出、夏合宿において中間報告、4年次冬休み明けに最終提出し、卒業論文報告会を開催する予定です。

3.選考について

a.募集人数：15人程度

b.選考内容：筆記試験(ミクロ経済学)、面接、成績表

c.他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否共に可

d.選考基準 ②をもとに総合的に判断する。

A日程合格者数によってB日程の試験を行わないことがあります。

4.ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子2人

(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子17人、女子6人

(他学部0人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ(水曜4,5限)

本研究会では、ミクロ経済学・マクロ経済学等の理解を深め、その応用として経済政策論や財政論の祖である公共経済学を学習しています。本ゼミではPowerPointとレジュメを用いた輪読を行っています。自由度の高いゼミなので、サークル、バイト、資格試験、就活など各々の活動との両立も可能です。

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

パートごとに論文を発表します。

⑦夏休み

9月中旬に合宿を行います。

⑧合宿

・新歓合宿(1泊2日) GW前後に都内で集まり、教授・ゼミ員同士の親睦を深めます。

・夏合宿(2泊3日)

3年生は三田論、4年生は卒論の中間発表を行います。

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

各合宿費など

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

Twitterにて過去問を少々ですが公開しま

す。他基本的なミクロ経済学のテキストであれば対応可能です。

例)『演習ミクロ経済学』武隈真一著

7.先生が担当している講義

日吉

ミクロ経済学初級 I 【春・木曜 2限】

三田

長寿と金融(寄附講座)【秋・木曜 2限】、

フィンテックとソーシャル・インフラストラ

クチュア ab(寄附講座)【春秋・金曜 2

限】

8.ゼミHP・SNS

Twitter: @SeminarNakamura

9.連絡先

廣瀬康生研究会

ーマクロ経済モデルー

1. 研究分野

マクロ経済モデルは、(1)現実の複雑な経済構造の理解を助けるための単純化、(2)経済情勢が今後どのように推移するかの子測、(3)政策変更の影響を計るシミュレーション、等を行うことができる分析ツールです。本研究会では、参加者がこうした分析手法を習得し、各自の問題意識に応じてモデル分析ができるようになることを目標とします。

マクロ経済モデルには様々な種類が存在しますが、本研究会では特に、フォワードルッキングな経済主体の最適化行動から導かれる行動方程式と市場の均衡条件を組み合わせた「動学的確率的一般均衡モデル (DSGEモデル: Dynamic Stochastic General Equilibrium Model)」を研究対象とします。DSGEモデルは、政策の波及効果を考える上で重要な経済主体の期待の役割を明示的に取り込んでいるなど、政策分析に適した性質を有していることから、世界中の主要中央銀行や国際機関においても近年盛んに開発・運用が行われています。

DSGEモデルの理解には、大学院レベルの知識が不可欠だと考えられていますが、少人数でじっくりと取り組むことができるというゼミの利点を生かせば、学部生にも十分習得可能だと思っています。

研究会では、まず、輪読または講義を通じて「DSGEモデルとは何か」、「DSGEモデルがなぜ必要か」といった点について理解を深めます。その間、DSGEモデルを理解する上で必要となる経済学と数学の知識も同時に学んでいくことになります。次に、行列演算

ソフトウェアであるMATLABを用いて、モデルの解法やシミュレーション技法を身につけます。最終的には、参加者が自らDSGEモデルを構築し、現実のマクロ経済分析(経済変動の要因や財政・金融政策に関する分析など)に活用することを目指します。

2. 学生への要望

学部中～上級レベルのマクロ経済学、ミクロ経済学、微分積分、線形代数、統計学の知識が必要となります。具体的には、以下のテキストを読んで理解できることを前提とします。

・George McCandless, *The ABCs of RBCs: An Introduction to Dynamic Macroeconomic Models*, Harvard University Press, 2008.

・加藤涼『現代マクロ経済学講義—動学的一般モデル入門』東洋経済新報社、2006年。

参加者はゼミの時間以外にも、各自積極的に研究時間を確保することが求められます。

私の専門分野および研究内容については、以下の個人HPを参照して下さい。

<http://sites.google.com/site/yasuohirose/>

3. 選考について

a.募集人数：5～10名

b.選考内容：レポートおよび面接(日吉での履修科目・成績を重視します。)

c.他学部入ゼミ:可

PERL生受け入れ:不可

d.選考基準：上記学生への要望を参照して下さい。

4. ゼミ員構成

4年生:男子3人、女子0人

(他学部0人,留学中0人)

3年生:男子3人、女子1人

(他学部0人、留学中1人)

5. 活動紹介

① ゼミ (月曜4~5限)

(春学期) まず、講義を通じて、DSGEモデルの基本形であるニューケインジアンモデルとその解法について学びます。次に、行列演算ソフトMATLABを使って、モデルシミュレーションの技法を習得します。その後、各自、三田論のアイデアについてプレゼンを繰り返しながらテーマを決定していきます。

(秋学期) 三田論を執筆します。三田祭後は、ベイズ推定法を学び、DSGEモデルを用いた実証分析を行う予定です。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

例年は、ソフトボール大会に参加したり、ISFJ政策立案コンテストへ向けて論文を執筆したりします。

⑥ 三田祭

三田祭論文コンクールに参加します。ゼミで一つの論文を執筆し、ブースを設置して解説します。

⑦ 夏休み

三田論の準備のため、関連論文を読み、理解を深めます。ゼミとしての集まりはありません。

⑧ 合宿

今年度はありませんが、通常山梨県へ2泊の夏合宿を行っています。

⑨ ゼミ必修授業

なし

⑩ 経費

なし

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

「現代マクロ経済学講義」加藤涼

「マクロ経済学」斉藤誠 他

「ミクロ経済学の力」神取道宏 等。

詳しくはHP、Recruitコーナーに掲載しております。

7. 先生が担当している講義

マクロ経済学初級II (日吉、火曜日2限)

Advanced Macroeconomics

(三田、月曜日2限)

マクロ経済学ワークショップ

(三田、火曜日4限)

8. ゼミHP・SNS

HP :

<https://hiroseseminar.github.io>

Twitter:

<https://twitter.com/hirosezemi2018>

9. 連絡先

藤田康範研究会

—応用ミクロ経済学—

1. 研究分野

本研究会は経済政策・応用経済理論を研究分野とし、日本経済・世界経済に関する新聞・雑誌等の内容を理解して平易に説明し論評する能力を養うこと、経済理論の活用方法を身につけて専門論文を執筆できるようになること、そしてその上で、感動を設計できるようになることを主な目標とします。各種の企業情報、研究所等が発行する雑誌の論文、『経済財政白書』、「ハーバード・ビジネス・レビュー」等を楽しめるようになることがおおよその目安です。

「コトづくり・ココロづくり」やプロモーション方法など、「感動の設計」に関する具体的課題を企業の方々からいただいてその解決案を提示させていただき、評価していただく機会を多く用意しています。

学生一人ひとりが新たな才能を発掘して相互に良い刺激を与え合い、「自他共栄」の中で大学生活の後半を充実させ、より良い社会人になるための準備をしていただきたいと希望しています。（具体的な課題解決のために経済理論がどのように役立つかについて関心のある方は、藤田康範『経済戦略のためのモデル分析入門』（慶應義塾大学出版会）（特に序章と第1章）をご覧ください。

2. 学生への要望

本研究会は、「独立自尊」の個人によるグループワークを基本としています。各班が担当個所の報告を行い、その上で質疑応答を行なってお互いに高めあうことを目指していますので、建設的な意見交換を行う

ことに慣れておいて下さい。学生一人ひとりがそれぞれの背景を大事にし、互いに異なり互いに尊重できる存在であり続けていただきたいと思っています。

プレゼンテーションにおいて最善を尽くすのみならず、プレゼンテーションをしていない時でも適切に振舞えることが理想です。

必要なことがらは責任を持って教え、無理なく丁寧に進行するように努めていますので、特に独自に学習を行う必要はありません。慶應義塾大学経済学部の2年生として誠実に生活し、交友関係を築いていただければ十分です。

3. 選考について

a. 募集人数

約15人

b. 選考内容

事前レポート・筆記試験・面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
他学部、PEARL生にも入会していただきたいです。

d. 選考基準

事前レポート、筆記試験および面接の結果により、総合的に判断し可否を決定します。

4. ゼミ構成員

4年生：男子 7人、女子 27人
（他学部2人、留学中0人）

3年生：男子 11人、女子 35人
（他学部 3人、留学中0人）

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜4～5限）

月に1つぐらいの頻度で与えられる課題に対して、5～6人のグループで取り組みます。その内容は経営戦略や「感動の設計」に関する実践的なものが多く、またpptのみならず動画を用いて企業の方々に向けてプレゼンテーションするので、社会で必要な思考能力や表現能力が驚くほどに身に付きます。

②サブゼミ

特に定められてはいませんが、課題のために藤田先生の授業の前後等で集まることはあります。

③パートゼミ

本ゼミは主にグループワークのため、あえてパートゼミは行っていませんが有志メンバーで課題に取り組むこともあります。

④インゼミ

特にありません。

⑤課外活動

慶早戦の応援や、動画作成のための現地訪問。先生を通じての企業の方々との様々な交流。

⑥三田祭

本年度は、論文発表の予定はありません。

⑦夏休み

それぞれの活動に専念してほしいという先生のご意向の下、ゼミ活動はオフになりますが、必要に応じて就職活動や研究についての相談等を先生にします。

⑧合宿

9月12日から2泊3日。

⑨ゼミ必修授業

月曜2限の経済政策のマイクロ分析と木曜3限の金融資産市場論です。

⑩経費

合宿やゼミTシャツ、誕生日会の費用等。その他にかかる経費は特にありません。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

『演習ミクロ経済学』新世社/『新・日本経済入門』日本経済新聞社/『経済戦略のためのモデル分析入門』慶應義塾大学出版会

7.先生が担当している講義

日吉

自由研究セミナー【春秋・月曜5限】

金融リテラシー【春・金曜5限】

インバウンド観光ビジネス創造論【秋・金曜5限】

三田

経済政策のマイクロ分析【春秋・月曜2限】

金融資産市場論【春秋・木曜3限】

8.ゼミHP・SNS

HP：<https://t.co/UDnAj7o5IW?amp=1>

Twitter:@Fujitasemi

9.連絡先

藤原一平研究会

ーマクロ経済学、国際金融ー

1. 研究分野

私の研究分野は、マクロ経済学、国際金融論となります。経済について、システム全体(一般均衡)で捉えて、その変動の要因を探求し、あるべき政策の姿を模索することに関心を持っています。新しい発見をし、その成果を国際的に評価の高い学術誌に掲載することが主な仕事(詳細は私のHPをご参照ください)ですが、日経新聞、日経ビジネス、等への寄稿や、経済政策に関するイベントでの発表を通じて、現実の政策問題を、わかりやすく理解することにも努めています。ゼミで取り組みたい研究分野もマクロ経済学・国際金融論を中心に考えていますが、これに限りません。ゼミ生が自分の関心のあるトピックについて、経済学的に説明できるようになることが大切と考えています。

①経済学的思考および分析手法の習得、②経済現象を理論的に理解し、これを説得的に説明する能力の習得、③グローバル化した社会で働くことを強く意識すること、の3つを大きな目的としています。いずれも、社会人となった際に、有益なスキルになるはずですが。

①は、エッセイ執筆、経済問題の討論、PC教室での計量実習などで習得を試みます。②については、卒論作成を通じて個人として、また、インゼミ(東京大学青木ゼミ)、その他の研究発表を通じてチームとして、個々が関心あるテーマについて研究に取り組む機会があります。③については、海外トップスクールに在籍する同世代の学生が、「どのような意識や将来展望を持って大学で学び、準備しているのか」といったことを適宜紹介したいと思っています。また、今年度同様、社会で活躍されている方々による特別講義も月に一度程度開催する方針です(詳しくはゼミのHPをご覧ください)。

2. 学生への要望

大学時代のゼミの最も素晴らしいことは、様々なバックグラウンドを持った友人と出会えることだと思います。

部、サークル、アルバイト等を通じた繋がりも素晴らしいものですが、ゼミという新しい軸を通じた友人は、その後の人生にとって、かけがえのないものとなるはずです。このため、ゼミの活動に積極的、かつ自発的に取り組む学生を希望します。

学生時代に、学業だけではない様々な経験をすることは素晴らしいことです。しかし、大学は、本質的には、将来に役立つ思考法を身につける場所です。このため、ゼミでは、卒論、共同研究に真摯に取り組むことができる人を希望します。

自分の関心があるテーマを自力で見つけ、これを分析対象として設定でき、さらに、粘り強くあきらめずに自身で設定した問いに対する答えを導き出せるような学生と一緒に勉強できることを願っています。

3. 選考について

a. 募集人数：20名程度

b. 選考内容：レポートと面談と成績

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL生受け入れ：可

d. 選考基準：レポート、面接では以下の点を重視しています。(a)自分の考えを説得的に表現できるか?(b)様々な(経済)問題に対し、ロジカルな解決策を提示できるか?

レポート課題としては、例年通りの「ゼミへの志望動機」に加え、マクロ経済トピックについての見解を問う問題の2つを考えています。

4. ゼミ構成員

4年生：男子11人、女子11人

(他学部1人、留学中1人)

3年生：男子11人、女子11人

(他学部1人、留学中5人)

5. 活動紹介

①ゼミ(月曜4~5限)

本ゼミでは主に、様々な経済事象に関する記事などを分析手法に焦点を当てて個人またはグループで紹介し、その後その発表についてのグループディスカッションや質疑応答により理解を深める活動を行っています。その中で、必要に応じて先生から講義形式で分析手法等を教わる事もあります。また月一度程度ゲストスピーカーを招き、講義や懇談会の形でその業界に関する様々なお話をしています。多種多様なゼミ生が集まることにより、自分一人では思いつかないようなアイデアに沢山出会えます。

②サブゼミ（水曜4~5限）

日本経済新聞の記事の紹介や金融に関する本の輪読・質疑応答を行うことで、最近の経済ニュースや本ゼミではあまり扱えない金融に関する知識を身に付けています。後期のサブゼミでは主に各グループで三田祭論文の準備を行います。また、サブゼミの時間を使って先輩方が就職活動の体験談をしてくださることもありました。

③パートゼミ

特に行っておりません。

④インゼミ

東京大学の青木浩介ゼミとインゼミを行っており、お互いの普段のゼミ活動への交換留学や合同発表会を行っています。青木ゼミでは主にモデルを用いた経済分析を勉強できます。

⑤課外活動

早慶戦をみんなで一緒に応援したり、ソフトボール大会に向けた練習、ポーリングやBBQ等を企画係主催で行ったりしました。

⑥三田祭

三年生は各グループで設定したテーマについての論文を発表します。年によっては四年生が中心となり出店を開くこともあります。

⑦夏休み

夏休み中に後述の合宿を行い、そこで三田祭論文の中間発表を行うので、それに向けた準備などを各グループで適宜進めます。

⑧合宿

三田祭論文の中間発表や体育館でのレク、最終夜の飲み会などを通じ、見識・親睦共に深めます。三年生は自分たちの論文の準備に、四年生は三年生に向けたアドバイスに力を注ぎます。

⑨ゼミ必修授業

今年度はありませんでした。

⑩経費

年会費 2500 円、合宿料金 26000 円、その他雑費

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特に必要ありません。

7.先生が担当している講義

マクロ経済学初級 I【春・火曜 1 限】 マクロ経済学初級 I (PEARL)【秋・火曜 2 限】 マクロ経済学中級 Ib (INTERMEDIATE MACROECONOMICS 1B)【春・火曜 3 限】 応用マクロ経済学 (APPLIED MACROECONOMICS)【春・月曜 2 限・大学院生向け】

マクロ経済学演習 (SEMINAR:MACROECONOMICS)【春秋・火曜 5 限・大学院生向け】

8.ゼミ HP・SNS

Twitter @fujjwarazemi

Instagram @fjwr.research.seminar

9.連絡先

藤原グレーヴァ香子研究会

—マイクロ経済学・ゲーム理論—

1. 研究分野

担当者の専門分野はマイクロ経済学および非協力ゲーム理論です。本研究会ではこれらの理論を、輪読を通じて勉強するとともに、必要に応じて数学もサブゼミなどで勉強します。それぞれの理論の具体的な内容は以下の通りです。

マイクロ経済学：中級レベルのマイクロ経済学を学びます。具体的には、「均衡」や「効用関数」など、日吉で習ったマイクロ経済学において重要な概念の数学的基礎付け、拡張した理論などを勉強します。直感的に理解していたものを論理的に捉え直したり、もっと幅広いものが含まれていることを理解することで、経済学の「おもしろさ」を感じることができると思います。

非協力ゲーム理論：ゲーム理論とは「社会における利害対立の数学的分析」であり、本研究会ではその中でも非協力ゲーム理論を扱います。非協力ゲーム理論の有名な例として「囚人のジレンマ」がありますが、これは最も単純なものであり、理論そのものを厳密に勉強するには高度な数学的知識と論理的思考能力が必要になります。そのぶん、多くの興味深い結果がゲーム理論によって得られており、近年、ゲーム理論は経済学だけでなく経営学や政治学にも欠かせないものとなっています。

3年生ではこれらの理論を丁寧に学び、4年生では学んだことを生かして自分の興味のある経済問題を分析していくことになります。

2. 学生への要望

本研究会は、マイクロ経済学や非協力ゲーム理

論といった理論を学ぶ研究会です。したがって、日吉で学んだマイクロ経済学や数学の知識が必要になります。本研究会を志望する際にはそれらを復習し、基礎を固めているとよいです。

また、本研究会では自分の頭で考えることを重視しています。したがって、必ず予習をし、ゼミに積極的に参加する必要があります。その際、難しい問題に対してすぐに「わからない」と思考放棄をせず、じっくりと時間をかけて考え、関連文献を調べて、まずは自分なりの答えを出すという姿勢が重要です。初心者のおときは間違えることがあっても、それにくじけず直していくことで2年間でかなりの理論的実力がつきますので、粘り強く取り組んでください。高校数学とはまったく異なる勉強法で、定義と論証がメインですので、これらをしっかりやりたい意欲と努力だけが重要です。

3. 選考について

a. 募集人数：A,B 両日程合わせて約 10 人（A 日程でこのくらいの人数になった場合 B 日程は行いません。）

b. 選考内容：英語で書かれたマイクロ経済学初級レベルの文章を読み、要訳または全訳、およびマイクロ経済学初級レベルの計算問題。成績表のコピー提出。（日吉のマイクロが D の方はご遠慮下さい。）PEARL 生以外は面接はありません。（英和辞典のみ持ち込み可。電子辞書可。経済学用語辞典は使用不可。）

c. 他学部生、PEARL 生受け入れの可否：他学部生は受け入れません。

PEARL 生については日本語の議論について

こられる人は受け入れます。その能力について面接を行います。(ハンドアウトや卒業論文は英語でも可。)

d.選考基準：研究会についてこられるレベルかを答案で判断します。英語の試験はゼミの予習と同じ作業となっていますので、時間内になるべく多く、経済学的に正確に理解したかを見ます。また、理論の基礎も大切ですので計算問題が出来ない場合、自動的に不合格となります。

4.ゼミ構成員

4年生：女子2人、男子7人(休学中1名)

3年生：女子1人、男子7人

5.活動紹介

①ゼミ(水曜4~5限)

ミクロ経済学またはゲーム理論の教科書(英語文献が多い)の輪読。各自予習をしていて、事前に定められた順に報告したり、その場でくじを引いて報告したりします。

②サブゼミ(金曜5限)

経済数学を先輩または担当者の指導の下で勉強します。

③パートゼミ

ありません。

④インゼミ

10~11月ごろに合同討論会を行います。

⑤課外活動

特にありません。

⑥三田祭

3年生が参加するかを決めます。参加する場合はインゼミで勉強したことを報告することが多いです。

⑦夏休み

合宿をします。また、インゼミや三田祭の準備のために集まることもあります。

⑧合宿

夏合宿(2泊3日)を毎年行います。3年生は2チームに分かれてディベート、4年生は卒論の中間報告を行います。

⑨ゼミ必修授業

ミクロ経済学中級I a・I b

ミクロ経済学中級II a・II b

ゲームの理論 a・b

⑩経費

テキストコピー代、夏合宿費など

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

武隈慎一(1994)『演習ミクロ経済学』新世社など

7.先生が担当している講義

ミクロ経済学入門II(PEARL)(日吉、火曜日3限)

ミクロ経済学初級II(日吉、木曜日2限)

ゲームの理論 a(三田、金曜日2限)

8.ゼミHP・SNS

〈SNS〉ゼミ生運営のTwitterアカウント
@greve2020

〈HP〉ゼミ生によるHPはありません。
先生のオフィシャルサイトにある「研究会」のページは

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/takakofg/seminar.html>

9.連絡先

穂刈亨研究会

—マイクロ経済学、ゲーム理論—

1. 研究分野

ゲーム理論には、非協力ゲームの理論と協力ゲームの理論がありますが、私たちの専門分野は協力ゲームのほうです。この分野では、何人かの人たちが協力することで得られる成果をどのように分けるかという問題を、非常に抽象的な設定の下で数学的に分析します。

研究会では例年、マイクロ経済学とゲーム理論のテキストの輪読を行っています。今年度は『その問題、数理モデルが解決します』ベレ出版、2019を使用しています。

卒業論文のテーマはゲーム理論でなければならぬというわけではありません。

参考までにこれまでの卒業論文のタイトルをいくつか挙げておきます。

卒業論文のタイトル

- ・ノートの貸し借りと人間関係: ゲーム理論的考察
- ・「半官半民」という戦略: 競争と社会的厚生
の観点から
- ・個人の利他性と成果主義について
- ・株主が企業に与える影響とは: 株主と経営者の関係性
- ・劇場型政治と中位投票者定理
- ・日本とアメリカの新卒採用の比較: 学歴社会における企業と労働者のミスマッチ
- ・空港における離陸便再編成の最適戦略について
- ・カウンティングを用いたブラックジャックの最適戦略の理論的考察
- ・ゲーム理論による人狼ゲームの分析
- ・公共投資の契約を結ぶ際の政府と企業の

契約に関する分析

- ・仕事割り当て問題のオークションルールを用いたゲーム設計
- ・Cashless Economyの均衡について
- ・ネットワーク形成のモデルにおける部分ゲーム完全均衡: プレイヤーが6人の場合、
- ・医療におけるセカンドオピニオン: 悲有と医師の戦略的關係

2. 学生への要望

基本的に毎回出席すること

3. 選考について

a. 募集人数: AB 合計 15 人程度

b. 選考内容: 筆記試験 8 割 (マイクロ経済学 + 数学 持ち込み負荷)、面接 2 割

c. 他学部入ゼミ: 可

PERL 生受け入れ: 可

d. 選考基準: 筆記試験では答えが正しいかどうかよりも、経済学的な考え方、数学的な考え方ができているかどうかを重視します。

4. ゼミ員構成

4 年生: 男子 12 人、女子 1 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

3 年生: 男子 17 人、女子 4 人

(他学部 0 人、留学中 0 人)

5. 活動内容

①ゼミ(水曜 4~5 限)

マイクロ経済学のゲーム理論についての文献の輪読を行います。輪読は、生徒がレジメや板書を用いて事前に振り当てられたテキストの内容を説明するものです。今年度の春学期は『その問題、数理モデルが解決します』(浜田宏著)を文献としました。ゼミ生は皆、和気あいあいと取り組み、先生からの鋭

い指摘とそれに対してゼミ生で意見を出し合い考えることで、ミクロ経済学について深く理解することができます。協力・非協力ゲームはもちろんのこと、経済学の基礎的な知識や数学についても多くのことを学ぶことができます。

② サブゼミ

なし

③ パートゼミ

なし

④ インゼミ

なし

⑤ 課外活動

ソフトボール大会など

⑥ 三田祭

2019年度はなし

⑦ 夏休み

なし

⑧ 合宿

2019年度はなし

⑩ 経費

特になし

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

『ミクロ経済学の力』

神取道宏著 日本評論社

『演習ミクロ経済学』

武隈慎一著 新世社

7.先生が担当している講義

経済数学Ⅲ (PERL) (日吉、春学期、金曜日 2 限)

ミクロ経済学入門 (PERL) (日吉、秋学期、木曜日 1 限)

ゲームの理論 b (三田、秋学期、金曜日 2 限)

専門外国書講読 (半期) (英) (三田、春学期、

火曜日 3 限)

8.ゼミ HP・SNS

穂刈享研究会ホームページ

<https://sites.google.com/view/hokarisemi>

Twitter 穂刈享研究会

@hokahokahokaril

9.連絡先

和田龍磨研究会

—計量経済学・国際マクロ経済学—

1.研究分野

本研究会では計量経済学、国際マクロ経済学を学ぶ。トピックとしては、為替レートの変動の分析、為替レートの予測、国際景気循環の推定などである。分析したものをレポートしてまとめ、発表する訓練も行う。ゼミで多用することになるコンピュータソフトウェアである MATLAB や STATA についての演習もゼミの中で行っている。

2.学生への要望

計量経済学、マクロ経済学、線形代数、およびコンピュータに関する知識があることが望ましいが、最初の数週間で統計学を含む計量経済学の復習を行うほか、コンピュータについても基礎からやることになるので、基礎知識はそれほどなくてもこれから積極的に学びたいという学生も歓迎する。

3.選考について

a.募集人数：20人

b.選考内容

A 日程：面接および日吉での成績

B 日程：筆記試験、面接、および日吉での成績

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
可

d.選考基準

筆記試験は統計学、線形代数、および微分積分から出題。選択して解答。

4.ゼミ構成員

4年生：男子0人、女子0人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子4人、女子3人

(他学部2人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ (月曜3・4 限)

②サブゼミ (曜 限)

現在のところなし。

③パートゼミ

現在のところなし。

④インゼミ

学生の希望により、行うことがある。

⑤課外活動

Bloomberg 投資コンテストなど

⑥三田祭

ポスター発表、今年度は仮想通貨についての発表を行う予定である。

⑦夏休み

合宿を行う(以下参照)

⑧合宿

1泊2日の合宿で合宿用に指定したテキストの輪読 (今年度は K. Rogoff "The Curse of Cash")

⑨ゼミ必修授業

必修ではないが、線形代数および計量経済学関連授業の履修を強く勧める。

⑩経費

教科書代、合宿費 15,000 円程度

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7.先生が担当している講義

国際経済学概論 (日吉)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter: @twecon_keio

9.連絡先

金融

新井拓児研究会

伊藤幹夫研究会

小林慶一郎研究会

佐藤祐己研究会

新井拓児研究会

—確率論・数理ファイナンス—

1. 研究分野

本研究会は数理ファイナンスを主テーマとしているが、実質的には、数学、とりわけ解析学と確率論の学習が中心となる。数理ファイナンス、特にオプションの価格付け理論を学習するためには、数学の議論が正確にできなければならない。そのため、数学の議論に慣れてもらうことを目的に、かなり細かなことにもこだわる妥協のない議論を目指す。具体的には、3年生の春学期に微分積分学の教科書の輪読を行い、3年生秋学期から4年生春学期にかけて確率論の教科書を輪読する。仕上げとして4年生秋学期に、学生の希望に応じて数理ファイナンスに関する文献を輪読する。特に、微分積分学においては、実数の連続性、点列の極限、関数の連続性、積分の定義などについて学習する。ちょっとマニアックな議論も行う。また確率論では、測度論の基礎について学び、大数の法則や中心極限定理などの極限定理を中心に、こちらも正確で細かな議論を行う。

尚、本研究会では飲み会、合宿などのイベントは行わない。三田祭にも原則的には参加しない。

2. 学生への要望

本研究会の内容や雰囲気は、悪い意味ではなく他の研究会とは相当異なる。決して怖いところでもなく、明るい雰囲気のゼミである。数学好きの学生が多く集まることを期待している。

3. 選考について

a. 募集人数

A 日程 5 名程度

b. 選考内容

数学に関する筆記試験

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受け入れの可否：不可

d. 選考基準

数学の基礎学力を十分持っていること。

4. ゼミ構成員

4 年生：男子 3 人、女子 0 人

(他学部 1 人、留学中 0 人)

3 年生：男子 2 人、女子 0 人

(他学部 1 人、留学中 0 人)

5. 活動紹介

①ゼミ (月曜 4・5 限)

主に輪読を行います。

②サブゼミ

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

なし

⑦夏休み

活動なし

⑧合宿

なし

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

教科書

6.ゼミ試験対策で使用了参考書

なし

7.先生が担当している講義

解析学Ⅱa(三田、春学期火曜2限)

ファイナンス概論(三田、秋学期月曜1限)

8.ゼミHP・SNS

Twitter : @arai_zemi2017

9.連絡先

伊藤幹夫研究会

—金融市場の理論分析・計量分析—

1. 研究分野

ここ数年間の伊藤幹夫研究会は、金融市場に対して統計的手法を用いた実証研究を行ってきました。具体的にはテクニカル投資戦略の有効性のブーストトラップ法による検証、信用リスクの測定、株価の国際関連、株式価格の予測可能性、伝統的CAPM理論、外国為替市場の先物プレミアムパズル検証、Brexit 国民投票や米国大統領選挙など結果が不確実な政治イベントが金融市場に与える影響の分析などです。研究会において学生諸君は、最近の金融理論、金融市場構造の実証に関する統計的方法、実際に実証を行う場合のデータ処理の方法を講義と演習から学びます。さらに、比較的入手しやすいデータを用いてさまざまな実証研究を行います。

4年次の卒論は、就職活動がひと段落した者から着手します。テーマは3年次のゼミの活動に関連したものに限定して、相談の上で決めます。その上でたたき台となる先行研究論文を選び、実証分析の追試、新たな貢献の模索、論文の根幹となる実証、論文執筆、改訂という過程を経て提出してもらいます。

この研究会の特徴は、経済学とファイナンスをいろいろな角度から学ぶという点にあります。ゼミに入会した学生諸君は、理論を学ぶにしろ実証的手法を学ぶにしろ、両方をバランスよく学ぶことが求められます。また、自ら体と頭を積極的に動かして、さまざまな経験を積むことが求められ

ます。

2. 学生への要望

研究会活動を含め大学における学習、研究活動が、将来の糧となるか無意味な時間つぶしになるのかは、学生諸君次第です。研究会に参加するならば、積極的な動機付けを自らに課してほしいと思います。

3. 選考について

a. 募集人数：15人程度（AB日程合計）

b. 選考内容

レポートのみ

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
不可

d. 選考基準

レポートの質

4. ゼミ構成員

4年生：男子 11人、女子 0人

（他学部 0人、留学中 0人）

3年生：男子 16人、女子 2人

（他学部 0人、留学中 0人）

5. 活動紹介

①ゼミ（水曜 4, 5限）

②サブゼミ（曜限）

サブゼミはありません

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

三田祭への論文提出予定はありません。

⑦夏休み

基本的に活動はありません。

⑧合宿

なし

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

なし

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

- ・金融工学の悪魔（著 吉本佳生）
- ・世界一やさしい金融工学の本（著 田淵直 他）
- ・文系人間のための金融工学の本（著 土方薫）

7.先生が担当している講義

三田：マクロ経済学中級Ⅱb（水曜2限）

8.ゼミHP・SNS

<http://www.math.hc.keio.ac.jp/itoseminar/>

9.連絡先

小林慶一郎研究会

—国際金融、マクロ経済学—

1.研究分野

教授による授業と各メンバーが選択した研究を本研究会では行う。

教授による授業では主に2つの分野があり、財政と金融である。

財政では近年の日本における財政政策や、財政状態、将来の展望などをテーマとして研究している。

金融では政府による金融政策全般からMMTといった具体的な政策についてまで言及していく。

ここでは、特定の事柄を集中して学ぶ形式ではなく、幅広い内容を授業していただく形をとっている。

各メンバーが選択した分野を三田論や卒論に向けて各自・各チームで研究していく。

本年では三田論では財政政策、ESG投資、フューチャーデザインを選択している。卒論では、仮想通貨、会社のガバナンス、投資手法などの幅広い分野を各自研究している。こちらは、自ら選んだテーマについて深掘しながら研究する形をとっている。

2.学生への要望

主体的に研究分野を探求し、意欲的に学ぼうとする姿勢をみせること。真面目で真剣に研究会に参加することを前提としている。

3.選考について

a.募集人数：10人程度

b.選考内容

ES、面接、成績表

c.他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否

可能（日本語で意思疎通が可能な場合）

d.選考基準

ESでは日吉時代に何を頑張ったのか？どのような研究をしたいのか？主体的な内容かどうか等を基準とする。

面接では人となりや教授が判断する。

成績表は基本的に重視する。

4.ゼミ構成員

4年生：男子 9人、女子 1人
(他学部 1人、留学中0人)

3年生：男子 6人、女子 5人
(他学部0人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ（月曜4,5限）

ゼミ活動は基本的に2つから構成される1つ目は、教授による時事ニュースや教授が興味を持つ分野等の解説である。

具体的にはフューチャーデザインや財政問題、金融政策等についてである。

2つ目は、研究会のメンバーによる発表（輪読を含む）と教授からフィードバックを受けるものである。具体的には、3年生は三田論、4年生は卒論に向けて発表を行っていく。

②サブゼミ（月曜6限）

3年生の希望者のみ参加する。金融用語の基本的な理解を促進するために、課題図書を選択し、3年生が順次輪読をして

いく。

③パートゼミ

なし

④インゼミ

なし

⑤課外活動

希望者のみフューチャーデザインのグループディスカッションを肌で感じるために、運営側としてかかわるために、定期的に岩手県矢巾町へと課外活動に行く機会がある。

⑥三田祭

3年生は全員がチームまたは個人で三田論を執筆する義務がある。テーマは基本的には自由であるため、各々が興味を持つ分野を選択する。

⑦夏休み

特にイベント開催はない

⑧合宿

希望者はゼミ合宿へ参加する。教授も参加するため、三田論、卒論へ向けて指導を受けることが可能である。中間発表の形で研究の進捗度を発表する。

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

必要な時にゼミ員から徴収する。1000円程度と見込まれる。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7.先生が担当している講義

金融資産市場論

8.ゼミ HP・SNS

Twitter:小林慶一郎研究会 2020

ホームページ economicsssss.wixsite.com

9.連絡先

佐藤祐己研究会

—金融論・応用ミクロ経済学—

1. 研究分野

専門は、金融論・ファイナンスです。情報の経済学をファイナンスに応用し、銀行やヘッジファンド等の機関投資家がどのように行動し、資産価格や市場流動性にどのような影響を与えているかを研究しています。詳細は、<https://sites.google.com/site/yukisatoecon/> を参照して下さい。

本研究会のテーマは、国内外の金融システムの現状と課題を、経済学のロジックを踏まえて分析することです。株式市場や債券市場を分析するためには、マーケットの作動特性や個人投資家・機関投資家のポートフォリオ選択行動をしっかりと理解することが不可欠です。同様に、銀行システムを分析するには、銀行のそもそもの存在意義や、プレーヤーとしての預金者・銀行・借り手企業・規制当局のインセンティブ構造を理解することが必要です。

こうした理解のために3年生の春学期にミクロ経済学の金融・ファイナンスの基礎理論を輪読、プレゼンし、ゼミ生で議論をしながら学びます。3年生の秋学期には、少人数のグループに分かれ、オリジナルのテーマで三田祭論文を執筆します。4年生は、卒業論文の執筆が主な活動です。

本研究会は4年目の新しいゼミなので、日々のゼミの進め方やゼミ合宿、

インゼミなど、ゼミで行うことは全てゼミ生と教授で話し合い決めていきます。

2. 学生への要望

金融・ファイナンスに興味があり、それらについて経済学に基づいてじっくり考え、議論し、理解をしたい学生を求めます。

本研究会は現実と理論のバランスを重視するため、数理モデルだけに興味がある人、理論にアレルギーがある人にはお勧めしません。

与えられたことだけをこなすのではなく、自発的に考え、積極的に議論に参加し、独創性のある研究をする意欲を持つ学生を希望します。

3. 選考について

a. 募集人数：15名程度

b. 選考内容：筆記試験、面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否：どちらも可（ただし日本語による文献の輪読と日本語によるディスカッションに問題がない学生に限ります。）

d. 選考基準

筆記試験9割、面接1割くらいのウェイトとなります。筆記試験では、ミクロ・マクロ経済学、統計学の基礎的な問題、が出題される予定です。

4. ゼミ構成員

4年生：男子6人、女子3人
(他学部0人、留学中0人)

3年生：男子16人、女3人

(他学部1人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ (火曜4・5限)

テキストの輪読や、教授が出題する理論モデルについて少人数に分かれて取り組みます。

②サブゼミ (火曜6限)

やるかやらないか、いつやるかなどは話し合って決めます。

③パートゼミ

三田祭論文、証券ゼミナール、インゼミ論文それぞれのパートごとに自主的に集まり研究、執筆を行います。

④インゼミ

12月に早稲田大学のゼミとインゼミを行います。

⑤課外活動

Bloomberg 投資コンテスト (任意)

証券ゼミナール大会

⑥三田祭

パート毎に作成した論文の内1つを発表します。

⑦夏休み

夏休み前に三田祭論文のパート分けをし、夏休み中に自主的に集まり研究、執筆を行います。

⑧合宿

8月に2泊3日で合宿を行い、パート毎の中間発表などを行います。

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

経ゼミ費、輪読書の購入、合宿費

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

特になし

7.先生が担当している講義

日吉：日本経済概論 (月曜2限)

三田：ファイナンス入門 a (火曜2限)

企業金融論 a・b (火曜3限)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter アカウント：@keio_satozemi

ゼミ HP：http://satoseminar.org

9.連絡先

国際経済

秋山裕研究会

大久保敏弘研究会

木村福成研究会

駒形哲哉研究会

櫻川昌哉研究会

白井義昌研究会

松浦寿幸研究会

秋山裕研究会

—経済発展論・計量経済学—

1. 研究分野

経済発展論は、国際経済分野の1つです。国際経済分野は、グローバルな経済のシステムを、構造的かつ総合的に扱う分野です。その中で、経済発展論は、一国が途上国から先進国まで発展するメカニズムに焦点を当てた領域になります。国や地域は限定されず、国際比較が多用されます。

当研究会では、「経済発展」をテーマとした研究を「計量的分析」を活用しながら行うことを基本としています。経済発展を促進するために私たちは何をすべきなのかという「課題」を、「経済理論」と「経済統計」を組み合わせることによって探求していきます。研究対象とする国・地域がどのような「経済構造」になっているのかを「経済理論」に基づいた経済モデルによって明らかにし、それを手掛かりとして具体的な経済政策を立案していきます。

経済発展論については、『経済発展論入門』（秋山裕著・東洋経済新報社）をざっと読まれるのもよいでしょう。

三田祭論文の作成などを通じてグループで論文作成について学び、それを基礎に個人で卒業論文を作成していきます。

2. 学生への要望

経済発展の「理論」についてあらかじめ勉強しておく必要はなく、日吉での「マクロ経済学」と「ミクロ経済学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題あ

りません。

計量的分析を行うにあたっては、「統計学」が必要ですが、計量経済学概論の履修は前提としていません。「統計学」の基礎部分がしっかり学んであれば問題ありません。コンピュータを活用しますが、特別な技能を学んでおく必要はありません。

ゼミ活動はグループ活動が基本となりますので、自分が持っている長所を、ゼミ全体の活動に生かしてくれればと思います。

3. 選考について

a. 募集人数：A 日程 10～15 人(欠員が生じた場合のみ B 日程を実施)

b. 選考内容：筆記試験 2 科目(マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、英語から 2 科目を事前に選択)と面接。筆記試験(2 科目計 60 分)は各科目から 10 問ずつ基礎的な理解を問う問題を出題。面接は 1 人 15 分程度。面接にあたっては、成績表と、事前に記入してもらう面接用資料を、参考として提出していただきます。(詳細はゼミ HP をご参照ください。)

c. 他学部入ゼミ：可

PEARL 生受け入れ：可

d. 選考基準：学力、意欲、集団での学習への適応力の総合判断です。(学生は選考に関与しません。)

4. ゼミ構成員

4 年生：男子 8 人、女子 2 人

3年生：男子4人、女子6人

(いずれも他学部0人、留学中0人)

5.活動紹介

①ゼミ (火曜 4,5 限)

春学期は、経済発展に関する文献の輪読を行います。毎週2人1組の発表者が文献の内容を解説し、それに関する実証分析も発表します。秋学期は三田祭に向けての発表や議論を中心に行い、卒業論文の中間発表を行うとともに、他の文献についても見識を深めます。

②サブゼミ (金曜 5 限)

秋山先生の指導のもと、計量分析について学ぶとともに、全国学生対抗円ダービーや日経 STOCK リーグにチームに分かれて参加し、その準備を行います。

③～⑤本ゼミ・サブゼミ以外の活動

・オフィスアワー：週2コマ分設置され、秋山先生に積極的に質問でき、輪読、三田祭論文、学外コンテスト、卒論の準備を円滑に進めることができます。

・日経円ダービー：為替レートの子測を行います。基本となる理論を学んだ上で、独自の予測方法を考えていきます。最近では、2010,12,13,14,18の各年で優秀賞を受賞しています。

・日経 STOCK リーグ：株式運用について学んだ上で、チーム内で議論し、投資テーマを決め、独自のポートフォリオを構築していきます。最近では2008,11の各年で敢闘賞を受賞しています。

・OB・OG会：ゼミのOB・OGとの交流も盛んで、毎年10月にOB・OG総会も開催しています。

⑥三田祭

3年生を中心に全員で1つのテーマに関する論文を作成し、発表します。現実の問題に学生らしく果敢に取り組むとともに、社会に通用する水準の研究を目指しています。ぜひご来場ください。

⑦夏休み

グループ単位で三田祭論文を進めます。全員で集まるのは合宿のみです。

⑧合宿

夏休みに、三田祭論文の中間発表を行わない、スポーツなどのリクリエーションを通じてゼミ員間の親睦を深めます。

⑨ゼミ必修授業

秋山先生担当『経済発展論 a・b』

⑩経費

輪読文献費、レジュメの印刷代、合宿費、三田祭参加費、などです。

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

筆記試験は基礎的な理解を問う問題ですので、高難度の特別な参考書は必要ありません。筆記試験の出題範囲および出題例は、ゼミのHPに掲載しています。

7.先生が担当している講義

統計学 I・II (日吉：春秋・水 3,4)

計量経済学概論 (日吉：春・月 3)

経済発展論 a・b (三田：春秋・金 3)

8.ゼミ HP・SNS

<http://web.econ.keio.ac.jp/staff/akiyama/zemi/index.html> (各種情報満載です。ぜひアクセスしてください。)

9.連絡先

大久保敏弘研究会

—国際経済、貿易—

1. 研究分野

国際経済学、海外直接投資、空間経済学、地域経済学

2. 学生への要望

上記の研究分野について興味を持ち、具体的に学習したい内容があり、積極的に学ぶ意欲を持つ学生に応募して頂きたいです。また、ミクロ、統計について最低限の知識を備えていることが望ましいです。ゼミ活動に関しては学生の自主性を重んじており、留学についても基本的に自由です。大学院進学希望者を歓迎しております。

3. 選考について

a. 募集人数：10人程度

b. 選考内容：成績表、筆記試験、面接の3点を基準に入ゼミの選考を実施します。

・成績

一応確認のために成績表を提出していただきますが、GPA等について可否に関する明確な基準は決まっています。

・筆記試験

試験内容はミクロ経済学、統計学、テーマ論述の3つです。

・面接

面接は受験者一人に対して教授、ゼミ生と実施します。主に志望理由や興味のある分野について質問します。

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
不可

4. ゼミ構成員

4年生：男子8人、女子4人
(他学部0人、留学中2人)

3年生：男子6人、女子4人
(他学部0人、留学中2人)

5. 活動紹介

①ゼミ (水曜4,5限)

今年度春学期前半では「世界経済 大いなる収斂」を輪読しました。春学期後半は各学生で1つずつ、様々なテーマについての論文を作成会しました。時には教授からの鋭い質問や更なる解説があり、和やかな雰囲気ながらも緊張感をもって理解を深めることが出来ます。秋学期では三田際に向け教授から論文執筆について指導を頂き、ゼミ員同士協力して論文を作成し、入賞を目指します。

②サブゼミ (月曜4限)

本ゼミとは別に、毎週月曜日に大学院の先輩をお招きして教科書の輪読を行ったり、解説をしていただく等しています。春学期は「空間経済学」を輪読しました。秋学期では院生の方々に論文の作成について助言を頂きます。普段のゼミとは異なった視点、雰囲気でも経済学を学ぶことができ、新鮮な感覚で理解を深められるため、充実した時間を過ごすことができます。

③インゼミ

慶應経済学部への他の国際経済学のゼミと定期的に合同ゼミを行います。

④三田祭

教授から論文執筆について指導を頂き、ゼミ員同士協力し、サブゼミで院生の方々から助言を頂きながらゼミで1~2つ論文を作成し、入賞を目指します。

⑤合宿

毎年8月~9月頃に1泊~2泊で合宿を実施します。勉強は勿論、観光や花火等楽しいイベントもあるのでお楽しみに。

⑥ゼミ必修授業

毎年入ゼミ試験後に発表されます。

⑦経費

特になし

6.ゼミ試験対策でを使用した参考書

基本的に1、2年の授業内で学んだ範囲からの出題となるため、各々が授業で使った教科書で対策しました。

7.先生が担当している講義

貿易政策 a/b 【三田・春集中】

8.ゼミ HP・SNS

Twitter : @OkuboSeminar

9.連絡先

木村福成研究会

—国際経済学・開発経済学—

1. 研究分野

本研究会では、国際経済学のうち実物面を扱う国際貿易論と、発展途上経済を分析する開発経済学を、理論と実証・政策研究の両面から学んでいく。

北東アジアと東南アジアを含む東アジアは、少なくとも製造業に関する限り、世界で最も進んだ生産工程・タスク単位の国際分業、すなわち「第2のアンバンドリング」が展開されている地域となっている。生産ネットワークを拡大・深化させる余地は大いに残っている。一方、デジタル・エコノミーの到来により、東アジアは新たな開発戦略を模索する必要性が生じてきている。今後の国際通商政策体系、メガ FTAs の動向は、これらと密接に関連している。

本研究会では、国際経済学と開発経済学についての基礎的理解を土台とし、現代の日本経済、東アジア経済、世界経済が抱える諸問題について議論していく。

研究会の活動内容は、経済学を踏まえつつも大いに実践的である。教材は基本的に英語文献のみを使用し、またパソコンも駆使する。論理的な文章の執筆、説得力のあるプレゼンテーションを重視する。使用言語は英語でも日本語でもよいものとする。研究者・エコノミストや国際公務員を希望する者はもちろん、広く国際的な分野で活躍するビジネスマンを目指す諸君にとっても、有用な教育サービスを提供する。この教育リソースを有

効に活用してくれる元気な学生諸君の参加を望む。

私の最近の主要研究テーマは、国際的生産・流通ネットワークのメカニズム解明、新興国・発展途上国とデジタル・エコノミー、東アジア・アジア太平洋の経済統合戦略などである。例えば『国際経済学入門』（2000年、日本評論社）、

『TPPの期待と課題：アジア太平洋の新通商秩序』（共編著、2016年、文真堂）、『東アジア生産ネットワークと経済統合』（共著、2016年、慶應義塾大学出版会）、『国際経済学のフロンティア：グローバリゼーションの拡大と対外経済政策』（共編著、2016年、東京大学出版会）などを参照してほしい。

また、ASEAN および東アジアの経済統合を推進するためにジャカルタに設立された国際機関、東アジア・ASEAN 経済研究センター(ERIA)のチーフエコノミストも務めている

(<http://www.eria.org>)。

2. 学生への要望

日吉で経済学をしっかりと勉強してきたとか、英語を鍛えたとか、コンピューターに熟達したとかいうことは、将来必ず役に立つ時が来るだろう。しかしそれ以上に是非やってきてほしいことは、国際経済・開発経済、あるいはもっと広くグローバル化する国際社会が抱える諸問題について関心を持ち、新聞に目を通

し、本をたくさん読むことである。できれば経済学だけではなく、その他の社会科学・人文科学も広く勉強して、国際人となるにふさわしい真の教養を身につけてほしい。誰の意見であれ鵜呑みにすることなく、自ら考え、自ら調べ、自ら行動する人間になることが、最も大切である。

PEARL 生も受け入れる。また、海外留学を計画している学生、SciencesPo ダブルディグリーの学生も歓迎する。

3.選考について

a.募集人数：

A 日程のみ実施する。募集人員は AB 学生、PEARL 学生を合わせ 16 名程度とする。SciencesPo DD 学生は別枠とする。

b.選考内容：

【午前中】「経済活動あるいは経済政策のグローバル化に関連する問題を一つ取り上げ、その解決に向けて経済学はいかに役立ちうるか」という問いに答える形で、90 分以内で小論文を執筆してもらいます。

【お昼】先生は皆さんの小論文を読みます。その間二年生には昼食に行ってもらいます。

【午後】グループ面接。時間/順番は当日の小論文のテーマによって決まります。

c.他学部入ゼミ：受け入れる

PEARL 生受け入れ：受け入れる

d.選考基準

小論文 50%、面接 40%、成績（成績表のコピーを持参すること）10%のウェイトで得点順に選考する。知識、プレゼンテーション能力はもちろん重要であるが、それ以上に自らの頭で考えているかどうか

かを重視する。

4.ゼミ員構成

4 年生：男子 12 人、女子 16 人

（他学部 0 人、留学中 2 人）

3 年生：男子 8 人、女子 15 人

（他学部 0 人、留学中 4 人）

5.活動紹介

①本ゼミ（水曜 4.5 限）

春学期は国際貿易論の洋書とより現実的な問題やテーマを扱った論文や文献を輪読して基礎固めを行います。サブゼミで学んだことを踏まえ、本ゼミはプレゼン形式で進行します。先生からの確かなアドバイスをコメントを頂いて疑問点を解決したり、より深い議論を交わしたりすることで理解を深めます。

秋学期は開発経済学の洋書と論文を輪読します。本ゼミは 3・4 年生合同で組まれる Chairman Group を中心に進められます。CG は担当箇所のレジュメ作成、議論の司会進行役をします。

②サブゼミ（月曜 4.5 限）

本ゼミに向けて予習を行います。教科書の範囲を各自予習したうえで、担当者がプレゼン練習を行い、議論します。パート論文作成などに充てることもあります。

③パートゼミ

パートごとの集まりは主に三田祭に向けて行われ、秋学期の前半にかけて論文を執筆します。

④インゼミ

例年、塾内では経済学部の白井ゼミ、商学部の安藤ゼミ、また一橋大の石川ゼミや横浜国立大の清田ゼミとインゼミを行います。さらに今年の夏は松浦ゼミと合

同でスタディツアーに行きました。

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

3年生をグループ分けし、国際貿易と開発経済に関する論文を執筆します。今年も中庭模擬店を出店します。

⑦夏休み

3年生の希望者で一週間ほど東南アジアにスタディツアーに行きます。

また、3年生は10~15枚の論文を個人で執筆し、それに基づくプレゼンを夏合宿で行います。

⑧合宿

新歓合宿 17,500円(越後湯沢、2019)

夏合宿 23,000円(山中湖、2019)

⑨ゼミ必修授業

必修はありませんが、木村先生が担当し、ゼミとの相乗効果を期待できる国際貿易論やPCPの授業を履修するゼミ員が多いです。

⑩経費

4,000円(2019年度)

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

各自のテーマに基づき適宜

7.先生が担当している講義

日吉：なし

三田：国際貿易論 a(春・水曜 1.2限)、国際貿易論 b(秋・水曜 1.2限)、国際法と経済(春・木曜 2限)、金融・政策と世界経済(秋・土曜 4限)、国際経済論 I(春・水曜 1.2限)、国際経済論 II(秋・水曜 1.2限)

8.ゼミ HP・SNS

Twitter: @kimuranyuzemi

Instagram: kimura.fukunari.seminar

9.連絡先

駒形哲哉研究会

—東アジア・中国経済論—

1. 研究分野

皆さんは中国に対しどのような認識をお持ちでしょうか？2010年にGDPにおいて日本を追い抜きさらに経済成長しているのが実状です。科学技術のレベルも同水準はたまたそれ以上であることも事実です。

中国が経済成長していくにつれ世界経済におけるプレゼンスが高まってきました。それはつまり中国が好き嫌いで付き合いかどうかを判断する段階は終わったということです。中国の経済変動が世界に影響を及ぼしているこの現代に中国のことを知らないなんて以ての外ということです。

前置きが長くなりましたが私たちは主に中国について学んでいます。よく日本と中国は「一衣帯水の国」と表現されますが政治経済体制などが異なるため隣国だからといって考え方が似ているわけではありません。それらを含め中国に関する豊富な研究トピックを分析し議論するのが我々の活動の内の一つです。しかしながら当研究会は中国に関する知識が豊富な中国オタクを育てるのではなく得られた知見から論理を組み立てる思考力を身に着けることを最終的なゴールとして活動しております。

2. 学生への要望

かなりの時間を研究会のために割くことになるので研究会を優先して参加することの出来る学生を求めています。また本ゼミ中ではグループと全体でディスカッションがありますが積極的に議論に参加する意欲のある人を募集しています。

当研究会は中国語が出来るという条件はご

ざいませませんが中国を学んだ経験がある方や中国や台湾、兩岸経済に興味がある方も受け入れています。

3. 選考について

a. 募集人数：10人(A、B日程合計)

b. 選考内容

- ・新聞などで自分が選んだテーマについてのプレゼンテーション及び質疑応答
- ・志願書の内容についての面接

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否とも可(ただしPEARL生は日本語による議論が出来ることが条件)

d. 選考基準

三田祭論文、個人研究、輪読発表等ゼミに割く時間が多いためゼミを最優先し、また中国経済(台湾、兩岸経済)について興味があるもの

4. ゼミ構成員

4年生：男子 7人、女子 3人

(他学部 1人、留学中 0人)

3年生：男子 6人、女子 1人

(他学部 0人、留学中 2人)

5. 活動紹介

①ゼミ(火曜4,5限)

春学期は3年生中心になって南亮進、牧野文夫『中国経済入門[第4版]』を用いて輪読発表を行います。輪読発表を終えた後、報告内容に関する論点について最初にグループディスカッション、その後全体議論を行い中国に関する基礎知識を身に着けます。秋学期は三田祭論文の準備を進めるとともに卒業論文に向けた個人研究の報告をめぐり春学期と同様の流れで議論し、知識だけ

でなく論理展開の方法を学びます。

②サブゼミ（水曜4限）

パートゼミ(後述)の作業を中心として活動しつつ、必要に応じて本ゼミで扱えなかった論点を議論、三田祭論文の準備に時間を充てます。

②パートゼミ

マクロパート、ミクロパートの2パートに分かれ主にサブゼミの時間を使い活動しています。マクロパートでは中国経済について分析レポートを書き、一般社団法人霞山会のウェブサイトで公表させていただいています。どのような記事を書いているか興味を持った方は「中国 マクロ」と検索してみてください。ミクロパートでは論文作成のため企業の方にヒアリングを行っています。アポ取りからヒアリング後の報告、記録全て学生が行っています。

④インゼミ

今年度は獨協大学とインゼミを行います。年によっては学習院大学など2大学以上とインゼミを行うこともあります。

⑤課外活動

課外活動の時間を用いて論文作成のため企業や政府機関にヒアリングを行います。今年度は経済産業省にヒアリングを行いました。

⑥三田祭

三田祭では毎年論文発表とパネル展示を行っています。数年前には銀賞をいただいたことがあるので上回れるようゼミ員一同頑張っているところです。

⑦夏休み

インターン、サークルの合宿、バイトと両立させながら個人研究及び三田祭論文の準備を行っています。

⑧合宿

9月の中旬に2泊3日の夏合宿を行いました。今年度は伊豆で行いました。合宿の内容としては個人研究の報告及び三田祭論文の中間発表があります。発表のための準備は大変で時間がかかりますが終わった後の達成感、爽快感は他では味わえないものだと思います。

⑨ゼミ必修授業

経済体制論 a/b

⑩経費

年会費：例年はないが今年度は2000円

合宿費：24000円

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

- ・日経テレコン(日本経済新聞のデータベース)
- ・RIETI(独立行政法人経済産業研究所)HP

7.先生が担当している講義

日吉：マルクス経済学Ⅰ,Ⅱ(月2)

フィールドワーク論(月4)

三田：経済体制論 a/b(火1)

8.ゼミHP・SNS

HP

<http://komagataseminar.mystrikingly.com/>

Twitter

@komagata_2018

9.連絡先

櫻川昌哉研究会

—国際経済—

1. 研究分野

春学期は国際金融についての本を輪読・プレゼンし、またそれとは別に金融や社会問題（少子化対策や所得格差是正など）について毎回一つテーマを選びゼミ員でディスカッションを行います。秋学期は三田祭論文やISFJ（日本政策会議）の論文発表、東大・一橋とのインゼミを行います。議論を通じて、自分達で疑問点を見つけ、考える力や本質を見抜く力を身に着けることを目的としています。少人数であるため、発言やプレゼンを行う機会が圧倒的に多く、自分を成長させる機会が多く得られます。

2. 学生への要望

知識やスキルなども大切ですが、櫻川ゼミでは学ぶ姿勢や議論への参加度を重視しています。また、様々な意見を取り入れるためにも留学に行く学生や他学部の学生も積極的に受け入れています。そのため、多角的な視点で物事を考えられるようになりたい学生を歓迎します。

3. 選考について

a. 募集人数：10人前後

b. 選考内容

レポート、面接、成績表

c. 他学部入ゼミ、PEARL生受け入れの可否
可

d. 選考基準

詳細未定

4. ゼミ構成員

4年生：男子8人、女子3人

(他学部0人、留学中2人)

3年生：男子7人、女子4人

(他学部1人、留学中2人)

5. 活動紹介

①ゼミ（金曜5限）

輪読、グループディスカッションを中心に活動しており、活発な議論が毎週行われています。知識が増えることはもちろん、様々な考え方も知ること、自己成長に繋がる場となっています。

②サブゼミ（曜限）

なし

③パートゼミ

なし

④インゼミ

12月に一橋大学と東京大学と行います。

⑤課外活動

なし

⑥三田祭

論文執筆

⑦夏休み

論文準備

⑧合宿

新歓合宿(5月)

⑨ゼミ必修授業

国際金融論 a,b (春、水・金曜3限)

⑩経費

合宿と諸経費含め2万円

6. ゼミ試験対策で使用した参考書

なし

7. 先生が担当している講義

国際金融論 a,b (春、水・金曜3限)

8. ゼミ HP・SNS

Twitter: @sakuragawa_2019

9. 連絡先

白井義昌研究会

—国際貿易、国際金融—

1. 研究分野

国際貿易・マクロ経済学

国際経済学についての研究トピックスについて3年はグループ研究・4年は卒業論文を作成することを目標にする。3年生のグループ研究の成果は12月に他大学との合同発表会にて英語で発表する。そのため英文研究報告書を作成することになる。研究アプローチは次のとおりである。国際経済問題を資源配分問題としてとらえ、その経済問題を議論する材料として科学的な問いを設定する。適切な理論分析と実証分析を行ってその問いに答える。

研究会の年間スケジュールは以下のとおりである。春学期前半に本ゼミでは、実際の英文学術論文を輪読解説することで、研究論文での問いの設定方法、またその問いにどのようにアプローチしているかを学ぶ。その過程で論文の読み方、発表の仕方も学ぶ。平行してサブゼミにて国際貿易と国際金融についての教科書輪読をして国際経済の基礎知識を学ぶ。経済学者が国際経済の問題についてどのように考えるかを知ることは研究を行う上でとても重要である。どのような研究をするにせよまずは標準的な考え方を参考にし、それに対する疑問をすることで研究の設問を設定するからである。

春学期後半に3年生は研究グループを作り、各グループ研究の研究トピックスと先行研究論文の選定と発表と行う。4年

生は卒業論文で扱うトピックスについての先行研究論文について発表を行う。この過程でグループ研究での科学的な問いを見出すための研究作業をなるべく明確にする。そして夏休み中の作業計画を立てる。夏休み最後に開催する合宿では夏休みの研究作業報告を行う。秋学期は共同研究の課題の明確化とそれに答えるための作業結果の精査と繰り返しを行い、結果の整理を行う。それに基づいて報告書の作成をする。報告書の作成は学術論文のフォーマットにならう。

1月は卒論作成に向けてトピックス選定と先行研究文献表の作成を行う。卒論トピックス選定理由と文献表の提出が課題である。

2. 学生への要望

国際経済に関することであれば研究トピックスの選択は学生の自由意志に任せたいと考えている。自ら積極的に問題を見つけてその問題にどうアプローチをすれば良いか相談してほしい。研究をする際に、結論を出すことを急ぐ学生が多いが、まずは先行研究を謙虚に学ぶ姿勢を持ってほしい。そして何事にも好奇心を持ってほしい。

3. 選考について

a. 募集人数：12人程度

b. 選考内容

ミクロ・マクロ経済学の内容を英語で問う筆記試験、面接

c. 他学部入ゼミ 不可 PEARL生 可

d.選考基準

筆記試験 50%、面接 50%

4.ゼミ構成員

4年生：男子 9人、女子 8人
(他学部 0人、留学中 0人)

3年生：男子 9人、女子 3人
(他学部 0人、留学中 1人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4・5限)

3、4年生で行います。春学期前半は英語の学術論文を輪読し、プレゼンター芯を行うことで国際経済全般の知識をつけ、国際貿易・国際金融について学びます。春学期後半からは3年生は主に国際貿易、国際金融、開発経済のテーマ別に班をつくり三田論に向けてグループ研究をします。4年生は卒論に向けて研究経過を発表し白井先生やゼミ生からの指導とフィードバックをもらいながら進めていきます。

②サブゼミ (月曜 4・5限)

3年生だけで行われます。サブゼミでは本ゼミで扱う高度な研究論文を理解するための基礎知識を身につけます。

③パートゼミ

パートごとに班分けをして三田論文を執筆していきます。

④インゼミ

例年12月に慶應義塾大学の木村ゼミ、一橋大学の石川ゼミ・古澤ゼミ、筑波大学の黒川ゼミと合同で研究発表会を行います。

⑤課外活動

特になし。

⑥三田祭

三田論の提出とブースで発表を行います。

す。

⑦夏休み

夏合宿あり

⑧合宿

新歓合宿あり

⑨ゼミ必修授業

なし

⑩経費

年会費 1500

合宿費 1万5000円(新歓)
2万円(夏)

6.ゼミ試験対策で使用した参考書

演習ミクロ経済学 武隈慎一著

クルーグマンマクロ経済学 ポールクルーグマン著

7.先生が担当している講義

日吉 マクロ経済学初級1

三田 ミクロ経済学中級1b

8.ゼミHP・SNS

<https://shiraizemi2014jimbo.com>

9.連絡先

松浦寿幸研究会

—国際経済学・産業組織論・地域経済学・応用マイクロ計量経済学—

1. 研究分野

(1) 教員の専門分野

企業・個人・製品レベルのマイクロデータを用いてグローバリゼーションが企業・雇用・イノベーション・地域経済に及ぼす影響に関する実証研究を行っている。国内外の政策シンクタンクとの共同研究や欧州・アジア各国の研究者との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

(2) 研究会の内容

世界が一つの競争市場となった今日、一国の競争力を高めるためには国際的な都市間競争に打ち勝てる大都市を持ち、その競争力を改善していくことが重要である。また地方都市を再生するためには AI や IoT の活用、そしてこれらの新技術を開発・応用するイノベーション産業の育成が求められている。本研究会ではこうした諸問題を題材に、国際経済学・産業組織論・地域経済学・経営経済学を基盤とする理論・実証の関連文献を輪読し、統計ソフトを用いた実習を通じて基礎的な実証分析の方法を習得する。より具体的には、①ものづくり・研究開発拠点の立地・移転の要因、②イノベーション産業の形成メカニズム、③企業組織とイノベーション人材、および地域労働市場④機械学習・深層学習、AI が都市やイノベーションに及ぼす影響、などのトピックを扱う予定である。

ここ数年、政策評価（あるいは企業戦略）の指針として、統計データによる「実証分析に基づく政策形成」（あるいは「実証分析に基づく経営手法」）への関心が高

まっている。こうした評価には因果関係の特定が重要であり、関連するテキストも多数刊行されつつある。本研究会では、こうした分析手法の理解を深め、学生の自主的な研究プロジェクトにつなげられるよう支援する。

2. 学生への要望

研究会の活動を優先して取り組める人を募集する。研究会は少人数で学ぶことができる貴重な機会であり、各人が積極的に取り組むことで、研究会の活動をより有意義なものすることができるからである。

本研究会では、データ分析を中心に据える。大規模データへの利用が容易になった現在、様々な新しい分析手法（機械学習やデータの自動収集、文字列解析等技術を含む）などが開発されている。新たに利用可能となったデータや分析手法を応用し、国際社会における諸問題を分析することに関心をもつ学生を歓迎する。そのほか、社会に出てから有用なスキル、たとえば英文資料の読解、プレゼンテーションや討論などのスキルの向上も図る。また、幅広い見識を身に着けるため、参加者の要望に応じて企業訪問や政策担当者へのヒアリング、他大学との交流など幅広い活動を行っている。こうした活動への積極的な参加も期待される。

本研究会は 2019 年度より募集を開始した新しい研究会で、研究会の活動については研究会メンバーからの要望・提案を歓迎します。

3.選考について

a.募集人数： 10 人

b.選考内容

課題レポート、面接、成績

c.他学部入ゼミ、PEARL 生受け入れの可否
ともに可

d.選考基準

面接 40%、レポート 30%、成績 30%

4.ゼミ構成員

4 年生：男子 0 人、女子 0 人
(他学部 0 人、留学中 0 人)

3 年生：男子 9 人、女子 1 人
(他学部 0 人、留学中 0 人)

5.活動紹介

①ゼミ (水曜 4 限)

2019 年度春学期は教科書 (エンリコ・モ
レッティ著『年収』は住むところで決ま
る)、中室・津川著「原因と結果の経済
学」、教科書に引用されている英語論文の
輪読、秋学期は三田祭論文、およびインゼ
ミの準備

2019 年度は、外部専門家による途上国
(カンボジア) の貿易政策に関する講演会
(木村研究会、大久保研究会と合同)、外
部講師を招いた Python 講習会 (中嶋研
究会と合同) なども実施

②サブゼミ (水曜 5 限)

データ分析ソフト Stata の実習

2020 年度は木曜 4 限に実施予定

③パートゼミ

2019 年度はなし

④インゼミ

学内・他大学の研究会と実施予定 (調整
中)

⑤課外活動

2019 年度は特になし

⑥三田祭

都市開発、インバウンド、SNS の 3 班で論
文を作成予定

⑦夏休み

2019 年度は三田祭論文の 3 つの班でグル
ープ研究を進め、9 月にミニ報告会を実施

⑧合宿

海外スタディツアー (2019 年度は木村研
究会との合同、8 月第 1 週に実施、インド
ネシア・タイ、任意参加)

⑨ゼミ必修授業

演習 a、演習 b、もしくは計量経済学中級

⑩経費

懇親会費などの実費のみ

6.ゼミ試験対策で使用した参考書
特になし

7.先生が担当している講義

2019 年度は学部担当講義無し

8.ゼミ HP・SNS

ゼミ HP

[https://sites.google.com/view/matsuura-
toshiyuki-seminar/](https://sites.google.com/view/matsuura-toshiyuki-seminar/)

9.連絡先

